

## 2—⑩ 指導計画の改善

### 「外国語活動・外国語科」の着実な実践を支える校内体制について

燕市立燕西小学校 小畑 一二美

#### 1 研究の視点に関する実態

##### (1) 昨年度までの取組と移行期の必要時数確保に向けた検討内容

昨年度の「外国語活動」の状況は、学級担任と ALT の TT 指導を組み、高学年で週 1 時間の外国語活動を位置づけていた。移行期の必要時数確保については、当校の実情に即して検討を重ねた。大規模校の 25 学級で特別支援学級が複数あり、ノーチャイムの学校生活に変更を加えずにできる最善策を模索した。

##### (2) 「外国語活動・外国語」の授業を充実させるための準備

新 COS のポイントや指導計画の整備など、計画的に職員研修を実施してきた。しかし、道徳の教科化等の対応も重なり、時間不足が否めない状況にあった。また、一部の職員に長時間勤務の常態化が深刻で、多忙化解消の視点を十分に踏まえた準備を進めてきた。

#### 2 改善のための具体的な方策と取組内容

##### (1) 外国語専科教員の活用

本年度、「小学校英語専科教員配置事業」の配置校となり、外国語専科教員が全学級の授業を担当し、教材準備から指導までの一切を担っている。そのため、結果的に学級担任が担う外国語・外国語活動の準備時間が軽減され、長時間勤務の是正が進んでいる。

##### (2) 校時表の見直しによる必要時数の確保

必要時数の確保については、「モジュール時程」が最も適するとの検討結果となり、5 時間目の前に 15 分間の国語の漢字や言葉を学習する時間を設定し、3 回で 1 単位時間を生み出すこととした。15 時間を確保するために、2 学期途中まで実施する。

##### (3) 外国語・外国語活動の指導力向上に資する研修の充実

1 学期に、移行期の留意点や新 COS のポイントの研修を積んだ。今後は単元や授業の指導の具体を模擬授業形式で行うことや、学期末に備えた評価の研修を予定している。

##### (4) 中学校との円滑な接続に必要な取組

中学校との接続を踏まえ、アルファベットの大きく小文字が確実に書けるように、毎時間 5 分程度の「書く」活動を取り入れた。当面、小文字の習熟を目指し、その後慣れ親しんだ文を見ながら書き写すなど計画的に取り組み、中学校でのギャップに備える。

#### 3 取組の成果と残された課題

##### (1) 取組の成果

これまでに外国語・外国語活動の時数確保が図られたことは、大きな成果と考える。毎日 15 分のモジュール時程で、漢字や言葉の定着も図られるようになったと、職員にも好評である。また、授業で用いた「指導案」「振り返りシート」「ワークシート」はもちろんで、プレゼン資料などもデータベース化を図り、次年度以降への備えが充実してきた。校舎内には、英語への興味関心を高める掲示物を順次張り出している。

##### (2) 残された課題

モジュール時程で下校時刻が遅くなり、児童の心理的負担や、日暮れが早い季節では下校の安全確保に課題がある。外国語専科教員の配置によって担任のスキル向上機会が減ることも課題である。